# 28P-am08

改訂モデル・コアカリキュラム実務実習に向けたルーブリック作成と評価トライアル（2）

〇鈴木 小夜[1], 池淵 由香[2], 清宮 啓介[2], 早川 智久[1,2], 岩田 紘樹[1,3], 地引 綾[1], 横山 雄太[1], 津田 壮一郎[2], 別府 紀子[2], 青森 達[1,2], 山浦 克典[1,3], 望月 眞弓[1,2], 中村 智徳[1]（[1]慶應大薬, [2]慶應大病院薬, [3]慶應大薬局）

【目的】慶應義塾大学では、慶應病院-附属薬局-薬学部連携ワーキンググループを立ち上げ、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（改訂コアカリ）に準拠した実務実習に向けた取り組みを行っている。その一環として、ルーブリック評価トライアルを実施しており、2016 年度の取り組みは日本薬学会第 137 年会（仙台）にて報告した。今回は 2017 年度のトライアル結果について報告する。

【方法】2016 年度トライアルで挙がった問題点の改善を行い、ルーブリックを追加作成した。2017 年度慶應病院Ⅰ・Ⅱ期実務実習生（計 46 名）を対象にトライアルを実施し、Ⅱ期実習では F(1)～(3)すべての SBOs を網羅したルーブリックにてトライアルを実施した。トライアル実施後、評価担当薬剤師及び実習生にアンケート調査を行い、実務実習評価におけるルーブリックの運用・実施可能性や評価の有用性、行動目標であるルーブリックに対する実習生の意識につき検証した。

【結果・考察】2016 年度トライアルで挙がった「負担が大きい」、「ルーブリックの内容が漠然としている」などの問題点を踏まえ、SBOs をできるだけ薬剤師業務の観点からルーブリックに落とし込み、具体事例や評価目安を付記することで「わかりやすいルーブリック」の作成に注力した。さらに、実務実習担当の指導薬剤師のみならず薬剤部全職員を対象として改訂コアカリとルーブリックの説明会を行い「周知徹底、意識統一」を図った。その結果、Ⅰ期実習後に評価者は「現在の方法と比べてルーブリック評価の方が適切に、客観的に評価できる、評価の負担は変わらない」と感じており、改善・工夫がルーブリック評価の有用性と運用・実施可能性に繋がった。一方、すべての実習生が必ずしもルーブリックを目指す行動目標とは捉えてはおらず、学生へのさらなる意識づけが課題の 1 つである。